

大和郡山の文化財調査

建造物研究室・平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センター

大和郡山市の近世城下における文化財調査で、地方中核都市として発展を目指す郡山の町づくりの手掛りを得ることを目的としている。今回の調査内容は、㉑ 近世城郭復元調査、㉒ 城郭遺存状況調査、㉓ 城内石垣調査、㉔ 城内植生調査、㉕ 城下町割・水路調査、㉖ 城下近世社寺調査、㉗ 城下町並調査、㉘ 保存と活用のための構想案の提示などである。以下に調査結果の概略を報告する。

城郭遺存状況調査は、江戸時代の城下絵図や現状航空写真をもとに現地踏査し

て行なった。中濠以内は石垣の一部に後世の補修がみられるが、全体として旧形を保っている。外濠及び土塁の遺存状況は、東及び北側で比較的良好であるのに対し、西及び南側では宅地化が進み大半は失なわれている。また濠の水質も工場・家庭排水の流入で汚濁が目立ち、富栄養化がかなり進行している。

城下町割・水路調査では、江戸後期の町割図や明治の地籍図と比較して、町割を区画する街路や背割水路も旧態をよく残していることがわかった。町家自体は、度重なる火災や天災で江戸末期以降の再建になるものが多く、また近年の建替えも目立つが、往時の面影を残す町並も本町や鍛冶町、紺屋町、洞泉寺など随所に残っている。

城下近世社寺調査では、城下の24件について、平面の実測・年代の確定の基本調査を行なった。全体的に17世紀中頃から18世紀中頃に建立した建物が多く残っている。

調査は次年度も継続され、文化財評価はもとより、町づくりの指標となるべきそれらの保存・活用の諸提言を行なう予定である。

(亀井 伸雄・本中 真)

